

# アサヒ飲料(株) 技術研究所



## 環境にやさしく安全安心な商品をつくり続ける技術力

技術研究所では、どうやったら1本でも多く、安全でおいしい商品を製造できるか、効率的な生産方法、商品の品質、安全面での製造技術の向上を目指し、日々研究を重ねています。ラボスケールでの製造テストや新たなペットボトル容器の開発、容器包装技術の開発に加え、微生物分析や理化学分析といった中味の安全、安心を支える技術の研究も行っています。

### 安全・安心

お茶、コーヒー、ミネラルウォーター、果汁、炭酸、乳性飲料における微生物制御、迅速検出、同定技術の開発に取り組んでいます。

### ブランド価値向上

商品設計技術の高度化・体系化につながる各種飲料含有微量成分分析技術の開発に取り組んでいます。

### 容器開発

ユーザビリティの向上、軽量化など、魅力ある容器開発に取り組んでいます。PETボトル、段ボールカートンについては設計から量産展開まで一貫して行っています。

## 研究

### ■人と環境にやさしい容器包装の開発

インターネット通販の利用者増加や、防災意識の高まりから、大型PETボトルのミネラルウォーターをケースで購入されるお客さまが増えています。そこで、「アサヒ おいしい水」天然水のカートンについて、開封方法が直感的にわかりやすく、指を入れて開封しやすい設計にすることで、「人にやさしい」カートンへ改良しました。一方、プラスチック削減などの環境問題に対応するため、植物由来原料の印刷インキを使用した「地球にやさしい」ラベルを開発しました。

### ■飲料中に含まれる機能性乳酸菌の新たな解析技術の開発

乳酸菌素材を配合した機能性表示食品は、商品中に含まれる乳酸菌が、特定の菌株であることを証明する必要があります。しかし、飲料中に含まれる加熱殺菌された乳酸菌は、従来の遺伝子検査では菌株レベルまでの明確な同定が困難でした。そこでRNAを対象に1塩基の差まで詳細に解析し他の菌株と識別する「RNA-MLSA法」を開発しました。この手法により、特定の乳酸菌素材が飲料商品に含まれていることを、明確に証明することが可能になりました。

### ■「PLANT TIME」のボトルデザインを女子美術大学と共同制作

植物性ミルクを使用した「PLANT TIME」専用の新規ボトルの開発において、ターゲットである女性の視点を重視し、女子美術大学と共同で制作に取り組みました。ユーザビリティ向上のため、持ちやすさやカバンにいれやすい形状を追求すると共に、商品コンセプトから想起された“植物素材がからだになじむ”“内側から輝かせてくれる”といったイメージを具現化するデザインを検討し、内側から輝くようなカットを施した多面体形状の容器を開発しました。



形状検討

最終形状

商品外観

### — 私のチャレンジ —

## 100年後の未来まで愛されるPETボトルをこの手で世に送り出したい

PETボトルの容器開発を研究テーマにしています。当社では自分たちでデザインを描き、試作を繰り返しながら自社で製造します。飲料メーカーですので容器は主役ではありませんが、目に留まり手に取ってもらえるデザインや持ちやすさなど、お客さまに喜んでもらえるものを目指しています。近年、PETボトルは環境配慮の観点から薄肉化が進んでいます。それでも強度を高める必要性があり、ユー

ザビリティを考慮した形状は難しい課題です。また、工場では大量生産するために形状にも制限がかかります。そういった制約の中で試行錯誤を重ねてデザイン性、機能性を追求するところに苦労は伴いますが、完成品がお客さまの手に届いた時には、大きなやりがいを実感します。100年後も同じ形で使われているような、長くお客さまに愛される画期的な商品をつくり出したいと思っています。



技術研究所 容器包装G  
伊藤 悠太 Yuta Ito

2013年  
入社